

# グループ経営構想V <sup>ファイブ</sup> ～限りなき前進～ **Ever onward** 限りなき前進

国鉄改革・会社発足から25年が経過し、JR東日本グループは次なる四半世紀へと踏み出しました。これを機として、東日本大震災などの大きな環境変化を踏まえ、今後のJR東日本グループの経営の方向性を改めて打ち出すべく、2012年10月、通算5回目となる経営構想「グループ経営構想V ～限りなき前進～」を策定しました。

策定にあたっては、「変わらぬ使命」を果たし続けること、「無限の可能性の追求」を通じ持続的成長をめざすこと、この2つを重要な柱と位置づけ、経営の基本的方向性と具体的に実行していくことをまとめました。

## 1 私たちの出発点 ～策定の背景～

### ◆経営構想策定にあたっての問題意識

- 東日本大震災の経験を通じ、「地域の絆」と「社会から寄せられる期待の大きさ」を実感。そして、鉄道という社会インフラを担う企業として、自らの果たすべき使命とその重要性を再認識。
- 震災により、経営環境は大きく変貌。震災からの復興はまだ道半ばであり、少子高齢化や国内産業の空洞化、地方経済の疲弊など、従来からの課題も震災を契機により一層顕在化。
- 加えて、福島第一原子力発電所事故や長期化する電力不足問題など、切迫する新たな課題への対応も不可欠。

→ 東日本大震災を国鉄改革に次ぐ「第二の出発点」と位置づけ、様々な課題を踏まえて、どのような役割を果たし、何をめざして進化を遂げていくのか、もう一度自ら問い直さなければならない。

持続的成長の実現と社会から寄せられる大きな期待に応えるため、新たな経営構想「グループ経営構想V ～限りなき前進～」を策定

## 2 私たちの志 ～経営の基本的な方向性～

### JR東日本グループのコンセプトワード

## 地域に生きる。世界に伸びる。

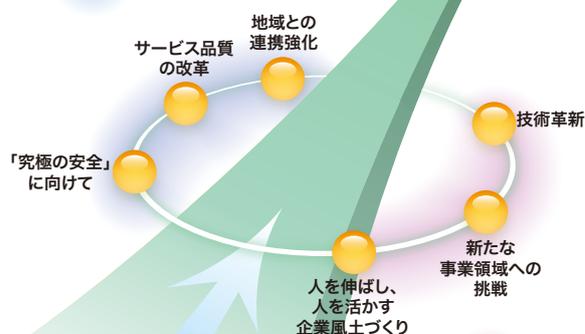
### 「地域に生きる。」とは

私たちは、震災を通じて、企業の存立基盤が、健全で活力ある地域社会であることを強く再認識しました。今、私たちが根ざす東日本エリア、そして日本は、様々な課題に直面しています。私たちは、地域社会の一員として、地域の皆さまとともにあるべき未来を考え、元気な地域を築くため、自らの使命を果たし、課題解決に向けて「私たちだからできること」を実行します。

### 「世界に伸びる。」とは

しかし、地域に根ざすことは、内向き志向に甘んずることではありません。私たちが使命を果たし続けるためには、私たち自身が常に変化し成長しなければなりません。外の世界に目を向け、新たな一歩を踏み出し、外部から知見や技術を積極的に吸収することが、成長の契機となり糧となると考えます。私たちが持っている可能性を花開かせるため、外に向かって果敢に踏み出していきます。

### 変わらぬ使命



無限の可能性の追求

## 「変わらぬ使命」と「無限の可能性の追求」

「グループ経営構想V ～限りなき前進～」では、「変わらぬ使命」と「無限の可能性の追求」を2つの重要な柱とし、6つの基本的な方向性を設定しました。

### ◆変わらぬ使命

「お客さまの求める安全で品質の高いサービスを提供する」、そして「鉄道サービス・生活サービスの提供を通じて、地域の発展に貢献する」という基本的な使命はいつの時代も変わりません。これを、改めて経営の重要な柱に位置づけるとともに、社会的な要請にしっかりと応えることができる内容・レベルとするために、不断の努力を続けます。

- ① 「究極の安全」に向けて ～災害に強い鉄道づくり～
- ② サービス品質の改革 ～鉄道ネットワークの拡充等～
- ③ 地域との連携強化 ～震災からの復興、観光流動の創造と地域の活性化～

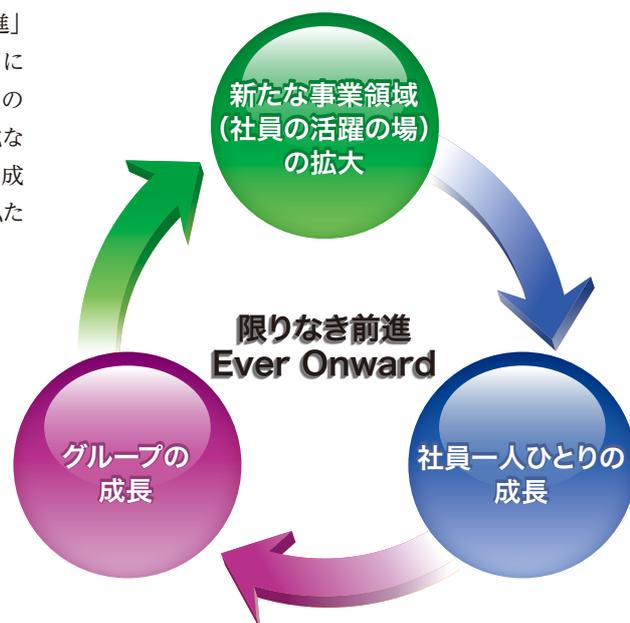
### ◆無限の可能性の追求

3つの「変わらぬ使命」を、将来にわたって果たし続けていくためには、グループの持続的成長が不可欠です。激しい変化の中で、現状にとどまることは後退することを意味し、常に新たな目標に挑戦し続けなければ、成長は成し遂げられません。JR東日本グループ、そしてそこで働く社員一人ひとりが持つ「無限の可能性」を追求していきます。

- ① 技術革新 ～エネルギー・環境戦略の構築、ICTの活用、高速化～
- ② 新たな事業領域への挑戦 ～グローバル化～
- ③ 人を伸ばし、人を活かす企業風土づくり

## 3 限りなき前進 ～Ever Onward～

「グループ経営構想V」では、副題を「限りなき前進」(Ever Onward)としました。これは、2008年3月に策定した「グループ経営ビジョン2020 ―挑む―」の「挑む」精神を受け継ぎ、技術革新やグローバル化などの新たな挑戦を通じて、社員の成長とグループの成長を実現し、無限の可能性を追求していくという、私たちの強い決意を表したものです。



## 4

## 変わらぬ使命

## 1 「きわめる」:「究極の安全」に向けて ～災害に強い鉄道づくり～

- 東日本大震災の経験を踏まえ、首都直下地震などを想定した地震対策にハード・ソフト両面から取り組み、「災害に強い鉄道づくり」に邁進する。
- ホームドアの整備、列車衝突・脱線事故対策や踏切事故対策の強化などにより、「安心してご利用いただける鉄道づくり」を推し進める。
- 引き続き「お客さまの死傷事故ゼロ、社員(グループ会社・パートナー会社社員を含む)の死亡事故ゼロ」をめざし、安全性向上への絶えざる挑戦を続ける。

## 〔主な取組み〕

- ① 大規模地震への対応
- ② 自然災害・異常気象への対応
- ③ ホームドア整備
- ④ 列車衝突・脱線事故対策などの推進
- ⑤ 安全を守る仕組み・体制の充実



## 2 「みがく」:サービス品質の改革 ～鉄道ネットワークの拡充等～

- 輸送品質に磨きをかけるとともに、お客さまに優しい鉄道サービスを徹底的に追求し、「顧客満足度 鉄道業界No.1」をめざす。
- 東北縦貫線の開業や、北陸新幹線金沢開業・北海道新幹線新函館(仮称)開業といった大プロジェクトを着実に推進し、観光をはじめとした新たな流動を創造する。
- シニア向けサービスの拡充による新たな需要の創造に努めるほか、Suicaについて、利便性向上に向けた取組みを推進し、生活に不可欠な社会インフラとしてさらなる浸透を図る。

## 〔主な取組み〕

- ① 輸送品質の向上
- ② お客さまに優しい鉄道サービスの追求
- ③ 東京圏ネットワークの充実
- ④ 都市間ネットワークの拡大 ～伸びる新幹線、広がる観光。新たな旅ルートの発見～
- ⑤ 社会インフラとしてのSuicaの利便性向上
- ⑥ シニア向けサービスの拡充



## 3 「ともにいきる」:地域との連携強化 ～震災からの復興、観光流動の創造と地域の活性化～

- 鉄道という社会インフラを担う企業として、かつ地域の一員として、地域と一緒に、地域のあるべき未来を考え、行動する。
- 震災からの復興が喫緊の課題である今後5年間(2016年度まで)を「重点期間」と位置づけ、「JR東日本グループだからできる」地域活性化策や観光振興策を精力的に実行する。
- 生活サービス事業について、大規模ターミナル駅や東京圏ネットワーク、地方中核駅を舞台に、駅周辺の街と一体となった開発・事業展開を進める3つの「まちづくり」を推進する。

## 〔主な取組み〕

- ① 沿岸被災線区の復旧
- ② 観光立国の推進
- ③ 生活サービス事業のさらなる成長 ～3つの「まちづくり」の推進～
- ④ 地方路線の担い手としての取組み
- ⑤ 地域の産業の活性化
- ⑥ 医療サービスを通じた地域・社会への貢献



## 5

## 無限の可能性の追求

## 1 「ひらく」:技術革新 ~エネルギー・環境戦略の構築、ICTの活用、高速化~

- 外部の開発力や知的財産を活用する「オープンイノベーション」の考え方を取り入れ、技術革新を強気に推進する。
- 電力不足問題を踏まえたエネルギー・環境戦略の構築、ICTを活用した従来の発想に捉われない新たな鉄道システムづくり、新幹線の時速360kmでの営業運転の実現に向けて重点的に取り組む。

〔主な取組み〕

- ① エネルギー・環境戦略の構築
- ② ICTの活用
- ③ 新幹線のさらなる高速化
- ④ 知的財産戦略の推進



## 2 「のびる」:新たな事業領域への挑戦 ~グローバル化~

- 海外鉄道マーケットの拡大が見込まれる中、国内外の企業と連携し、海外の鉄道プロジェクトに積極的に参画し、グループの成長をめざす。
- 新たな事業領域への挑戦を通じて、グループが有する技術とノウハウに磨きをかけるとともに、外に開かれた企業風土を構築する。

〔主な取組み〕

- ① 海外鉄道プロジェクトへの参画
- ② 鉄道車両製造事業の拡大
- ③ 社外の技術・サービスの積極的な活用
- ④ 新規事業の展開



## 3 「はばたく」:人を伸ばし、人を活かす企業風土づくり

- 仕事を通じて自己の成長とやりがいを実感できるよう、意欲ある社員が活躍・挑戦できる場を数多くつくとともに、「まず、やってみよう」という挑戦を尊ぶ気風を築く。
- 技術革新や海外鉄道プロジェクトへの参画などを通じ、他の業界や世界に広く関心を持つ、外に開かれた企業風土の構築と幅広い視野を持った人材の育成をめざす。
- 激しい経営環境の変化に対応し、成長分野に経営資源を投入できるよう、利益を確実に創出し続ける、筋肉質で俊敏な経営体質を創り上げる。

〔主な取組み〕

- ① 社員の活躍・挑戦の場の拡大
- ② 企業風土改革  
~ワークスタイル改革、組織運営の効率化~
- ③ 筋肉質で俊敏な経営体質の確立

